

女子中・高等科

企画課管理用 教 — C — 1

推進主体	女子中・高等科
責任者	女子中・高等科長

分類	実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教 — C	広報体制の整備	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

**① 目的・内容**

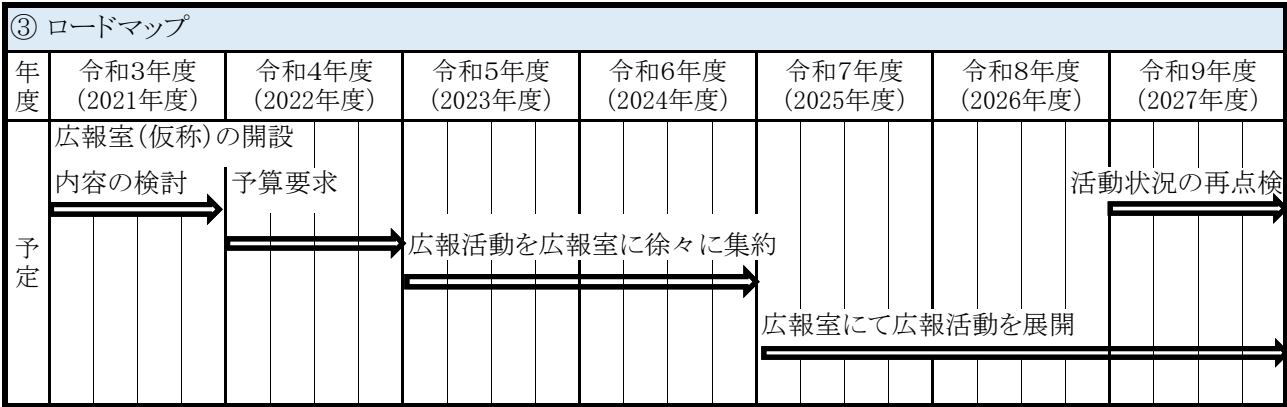
女子中・高等科の教育や諸活動を広く周知し、本校を志願する生徒をより大きな母集団としたい。また、その中から意欲あふれ、積極的に様々な活動をする生徒を獲得したい。

広報の活動は質・量、形式が数年単位で変わっている。女子中・高等科の広報は、現在、教頭の分掌の一部、教務課の分掌の一部として、また一年交代の広報委員がその任に当たっている。学校説明会に出向き受験雑誌に紙面広告を出す程度であれば、現在の体制でもある程度対応することは出来るが、これからの広報、積極的な攻めの広報を行うことは難しい。

広報業務は教務課、生徒課のように部署を設けて行うほどの活動量に近くなっている。広報室を設置し、広報経験や外部ともある程度パイプを持つ教員を中心に活動を進化発展させる。

**② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。**

- ・令和5年度より、広報を行う部門を広報室(仮称)で担いはじめる。教頭、教務課、広報委員が行っている活動を徐々に集約していく。
- ・令和7年度より、広報を行う広報室(仮称)に一本化する。



**④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。**

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	<p>教頭・教務課・広報委員などが担っている広報内容を精査、可視化して、今後の方向性と可能性を検討する。</p> <p>広報の素材となる学内コンテンツ等を新しい視点で洗い出し、広報の柱として育てる。</p> <p>広報媒体(紙、Web)の費用対効果を調査し、今後の広報方針とする。</p> <p>広報の視点で、在校生父母向けの学内イベントの配信等を考える。</p> <p>広報ではない広報効果が高い活動をさぐる(ブログ、動画授業など)。</p>	<p>教務課内での広報計画策定の際に、今年度より必ず教頭も参画する形とした。</p> <p>また、動画素材を充実すべく、一部の行事記録を専門業者に撮影依頼した(父母会で上映、学芸会公演については関係父母に頒布)。</p> <p>学習院大学をはじめ、他校の広報ヒアリングを実施した(副次的な広報アイテムの検討)。</p> <p>学内で教職員が担っている広報内容を検討し、次年度の分掌に反映する。広報の素材となる学内コンテンツ等を「学校評価」(Web形式)で募集(3学期)を行う。</p>
令和5年度 (2023年度)	<p>広報担当者を集約し(仮称 広報室)、中期計画の予算を活用し広報活動を展開する。また、受験者側の視点、教職員側の新しい視点、あるいは専門業者の立場で広報のコンテンツとなりうる素材を継続的に調査し、掘り起こしを行う。</p>	<p>広報室の設置には至っていないものの、広報計画策定に教頭が参画し、保護者対象学校説明会の新設や学校説明会での卒業生の活用、大手塾の模擬試験に会場提供する機会を増やし同時に説明会を開催するなど、受験生や保護者に直接はたらきかける広報効果の高い活動を進めた。</p> <p>またコンテンツの面では、各教科の動画を更新しHPへ掲載するとともに、STEAM教育のパンフレット作成、女子部らしいノベルティ制作、学校説明会で使用するパワーポイントのデザイン刷新などを行い女子部のイメージアップも同時に図っている。</p>
令和6年度 (2024年度)	<p>中期計画予算を活用し、広報活動を推し進める。過年度の広報予算の執行状況の分析や、他校広報活動の調査と資料作成など進めることで、データに基づく効果的な広報活動の方向性についても検討する。</p> <p>また、受験者側の視点、教職員側の新しい視点、専門業者の立場で広報のコンテンツとなりうる素材を作成し、学校説明会等で活用を進める。</p> <p>校務分掌においては、現在さまざまな立場で広報活動に携わる教職員を、広報室の設置を目途に、徐々に集約していきたい。</p>	<p>過年度の予算執行状況を検討材料とし、広報活動の方向性について検討を進めている。継続的に広報計画策定に教頭が参画し、教務課参与と協同し効果的な広報活動を見定めながら広報活動を進めている段階にある。</p> <p>女子部の教育方針を充分理解したうえで入学頂けるご家庭、受験生の獲得を目指し、受験者側の視点、教職員側の新しい視点、専門業者の立場で広報のコンテンツとなりうる素材の作成、女子部らしいノベルティ制作を進めている。</p> <p>新たな取材対応や保護者対象学校説明会、大手塾の模擬試験としての会場提供の機会を増やすなど、受験生や保護者に直接働きかける広報効果の高い活動を推し進めた。</p>
令和7年度 (2025年度)	<p>新体制のもとで、中期計画予算を活用し広報活動を推し進める。</p> <p>具体的な進め方については今年度入試の結果も踏まえたうえで広報効果が高い活動をさぐりながら、受験者側の視点、教職員側の新しい視点、あるいは専門業者の立場で広報のコンテンツとなりうる素材を継続的に調査し、掘り起こしを行う。</p>	<p>令和7年度は、入試結果や広報活動の反響を踏まえ、広報の方向性を検証する年度となった。教頭・教務課を中心に、受験者視点を意識した説明会運営やノベルティ、コンテンツ制作を進め、女子部の教育方針を伝える機会の充実を図った。一方、広報活動が人的負担に依存している現状も明らかとなり、情報発信の優先順位付けや効果測定の仕事みづくりが課題として残った。次年度は組織体制の整備とデータ活用が求められる。</p>
令和8年度 (2026年度)	<p>令和8年度は、広報活動の戦略性を一層高め、次期中期計画へ接続する年度とする。教務課における広報活動方針を尊重しながら、受験生視点・教職員視点・外部専門家(女子部ブランディングの年でもあるため)の知見を組み合わせ、学校の特色や教育成果が明確に伝わる広報コンテンツを体系化する。媒体別の効果検証を踏まえ、重点的に投資すべき広報手法を整理する。これまでの実績と課題を総括し、次期広報方針および予算配分の基礎資料を整備する。</p>	